

資 料

- 資料① 山口大学・鹿児島大学大学院共同獣医学研究科構想
- 資料② 山口大学・鹿児島大学による共同教育の理念
- 資料③ 共同獣医学研究科の教育上の到達目標
- 資料④ 共同獣医学研究科獣医学専攻の教育コース
- 資料⑤ 共同獣医学部と共同獣医学研究科における教育課程の関係図
- 資料⑥ 教育コース（コース科目）
- 資料⑦ 獣医専修コース（例、臨床専修医）
- 資料⑧ 連合獣医学研究科から共同獣医学研究科への教員組織の移行図
- 資料⑨ 共同獣医学部と共同獣医学研究科の教員組織の関係図
- 資料⑩ 履修モデル
- 資料⑪ 学位論文の審査体制
- 資料⑫ 共同獣医学研究科設置に係る学生定員の移行図及び改組前後の
学生募集（配置）実施予定
- 資料⑬ 授業実施体制
- 資料⑭ 遠隔授業システムの概要図
- 資料⑮ 管理運営体制
- 資料⑯ 鹿児島大学における研究活動上の不正行為に関する規則
- 資料⑰ 鹿児島大学学生に対する研究倫理教育の実施に関する規則
- 資料⑱ 鹿児島大学における研究活動に係る行動規範
- 資料⑲ 鹿児島大学におけるオーサーシップ・ポリシー

① 山口大学・鹿児島大学共同獣医学研究科構想 国際認証教育を担う先導的獣医学教育研究者及び高度獣医学専門家の養成

設置の趣旨

- 世界先端的な獣医学研究を推進し、生命・研究への高い倫理観を備えた先導的獣医学教育・研究者の養成
- 地域・国際社会の獣医学的課題解決に求められる高度な知識・技能・実務経験を備えた獣医学専門家及び獣医療人の養成

〈現行〉



〈計画〉



【新時代の大学院教育】H17.9.中教審

- 創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成
 - 高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成
 - 確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員の養成
 - 知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成
- 【獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議】 H26.6
- 進学者確保のため学部段階からライフサイエンスに関する学生の興味を喚起できる教育への積極的な取組が必要。
 - 獣医学に関する教育研究資源の地域偏在の解消、地域特性や既存大学の強みや特色を踏まえ、将来的なブロック毎の大学院の集約的整備が必要。
 - 国立大学における現行の共同獣医学課程の枠組といわゆる連合大学院の枠組との間にすれが存在することを認識してより効果的かつ効率的な教育の実現に向けた自律的な努力が必要。

【本構想の目的】

- 獣医学への多様な社会ニーズに対応した人材養成機能
 - 獣医科学コース
基礎獣医学/応用獣医学/臨床獣医学研究 研究者養成
 - 獣医専修コース
実験動物学 専門医/病理学 専門家/専修医 養成
- 研究フェイルドの重点化と共有、及び相互補完による教育の質向上
 - 国際通用性を備えた先進的獣医学研究者/高度獣医学専門家 の養成
 - 地域・国際社会の獣医学的課題解決に資する産官学連携による共同研究の推進
- 欧米国際認証基準に対応する卒業教育プログラムの提供
 - 英語教育の充実/社会人の学び直し/留学生受入れ促進



YAMAGUCHI UNIVERSITY
山口大学

② 山口大学・鹿児島大学による共同教育の理念



KAGOSHIMA UNIVERSITY
鹿児島大学

基本理念:生命科学の中核をなす動物生命科学研究を推進し、人類と動物の共生環境社会を科学的に考究し、動物生命倫理を通じて命の尊厳を学び、豊かな人間地球社会の創生に貢献する。

「共同獣医学研究科」教育の理念

世界先端的な獣医学研究を推進し、高い生命倫理と研究者倫理を備えた先導的獣医学教育・研究者の養成を通じて国際水準の獣医学教育の発展と深化に寄与し、又は高度獣医学専門家としての学識と研究能力を有する指導的獣医療人を輩出して地域・国際社会の獣医学的課題の解決を図り、以て人間地球社会の発展に貢献する。

山口大学



山口大学大学院 共同獣医学研究科
入学定員：6名

特色: 大都市間に位置し、二次診療と高度獣医療に特化した**伴侶動物獣医学、及び感染症・新興感染症研究の実践**

山口大学 共同獣医学部 獣医学科
入学定員：30名

鹿児島大学



鹿児島大学大学院 共同獣医学研究科
入学定員：6名

特色: 畜産基地に位置し、大規模農場、農業共済組合、家畜保健衛生所、食肉衛生検査所等との連携に立脚した**産業動物獣医学、及び動物感染症制御研究の実践**

鹿児島大学 共同獣医学部 獣医学科
入学定員：30名



学生移動による対面教育
双方向遠隔講義システム

「共同獣医学部」教育の理念

国際水準の獣医学教育を体系的に創出・実践するとともに、学際協力により深い知識と高度な技術を備えた専門性の高い獣医師を養成する。幅広い見識と倫理観を持って人間社会の質的向上に貢献できる能力を培い、問題解決能力と自己資質を向上させる能力を涵養することで、地域に根ざすとともに社会ニーズに対応した、地球国際社会を俯瞰できる人材を輩出する。



③

共同獣医学研究科の教育上の到達目標



学内外共同研究

学内外共同研究



海外研究拠点

(山口大学大学院連合獣医学研究科から引き継いだ国際交流基盤：東南アジア、東アジア、オーストラリア、中東、アフリカ諸国等)

国内研究拠点

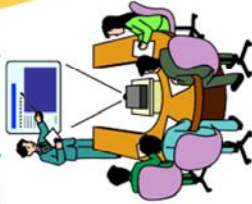
(山口大学大学院連合獣医学研究科から引き継いだ連携大学院：農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門、日本中央競馬会等)



学内外共同研究

農業団体

(NOSAI, JA, JRA)



共同獣医学研究科
国際基準の学部教育に立脚した
Advanced Postgraduate
Degree Programs

基礎獣医学研究
応用獣医学研究

臨床獣医学研究

獣医学修士課程
獣医学博士課程
獣医学修士課程
獣医学博士課程

二次獣医療



地域獣医療

(獣医師会)

臨床獣医学専修医

動物実験 / 食肉病理

製薬企業等

行政機関



獣医学博士課程
獣医学修士課程
獣医学博士課程
獣医学修士課程

④ 共同獣医学研究科獣医学専攻の教育コース

【学内・地域連携】

- ▶ 総合科学実験センター、中高温微生物センター、動物医療センター、創成科学研究科、医学研究科
- ▶ 自治体研究所・獣医師会・民間動物病院・NOSAI山口

【学内・地域連携】

- ▶ 総合動物実験施設、IADセンター、附属動物病院
- ▶ 連合農学研究科、医歯学総合研究科、理工学研究科
- ▶ 獣医師会・自治体研究所・NOSAI鹿児島、動物衛生研究部門

山口大学共同獣医学研究科

① 獣医科学コース

(研究者養成プログラム)

基礎獣医学

応用獣医学

臨床獣医学

② 獣医専修コース

(研究者養成プログラム+高度獣医学専門家養成プログラム)

鹿児島大学共同獣医学研究科



⑤ 共同獣医学部と共同獣医学研究科における教育課程の関係図



山口大学・鹿児島大学共同獣医学部

国際水準の獣医学教育を創出・実践
(欧州獣医学教育評価機構EAEVEIによる認証教育)

1年 2年 3年 4年 5年 6年

- 地域に根ざすと共に、社会ニーズに対応した地球国際社会を俯瞰できる獣医師を輩出

専門教育科目：齊一教育科目（147単位）

基礎獣医学科目

応用獣医学科目

応用・臨床獣医学科目

参加型臨床実習

共通教育科目（38単位）

専門教育科目：専修教育科目（6単位）

- ① 動物生命科学専修
 - ② 病態制御学専修
 - ③ 伴侶動物臨床獣医学専修
 - ④ 産業動物臨床獣医学専修
- ※①～④から選択
※専攻演習（4年次）・卒業論文（5、6年次）

卒業要件単位数（191単位）

山口大学・鹿児島大学共同獣医学研究科

学士課程を補い強化するための
Advanced Postgraduate Degree Programの創出・実践

1年 2年 3年 4年

- 次代の獣医学教育・研究者の養成、及び高度獣医学専門家としての学識・技能・実務能力を身につけた指導的獣医療人の輩出

共通科目（20単位選択必修）

共同教育科目（14単位）

：指導教員以外の授業科目

専門教養科目（3単位）

：研究者倫理、知財、英語関連科目

先端実践科目（3単位） ※獣医教育コース

：国内外研究機関研修、学会発表等 関連科目

特別専修科目（3単位） ※獣医専修コース

：実験動物医学専門医、日本獣医病理学専門家等、資格取得関連科目

コース科目（10単位選択必修） ※指導教員関連科目

① 獣医科学コース

基礎獣医学：特別講義・特別演習・特別実験 10単位

応用獣医学：特別講義・特別演習・特別実験 10単位

臨床獣医学：特別講義・特別演習・特別実験 10単位

② 獣医専修コース：特別講義・特別演習・特別実験 10単位

修了要件単位数 30単位

⑥ 教育コース(コース科目)

	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期
① 獣医科学コース 基礎獣医学	共通科目 (20単位) : 共同教育科目 (14単位) ・ 専門教養科目 (3単位) ・ 先端実践科目 (3単位)							
	特別講義・特別演習・特別実験 (10単位) 学位論文作成							
応用獣医学	共通科目 (20単位) : 共同教育科目 (14単位) ・ 専門教養科目 (3単位) ・ 先端実践科目 (3単位)							
	特別講義・特別演習・特別実験 (10単位) 学位論文作成							
臨床獣医学	共通科目 (20単位) : 共同教育科目 (14単位) ・ 専門教養科目 (3単位) ・ 先端実践科目 (3単位)							
	特別講義・特別演習・特別実験 (10単位) 学位論文作成							
② 獣医専修コース	共通科目 (20単位) : 共同教育科目 (14単位) ・ 専門教養科目 (3単位) ・ 特別専修科目 (3単位)							
	特別講義・特別演習・特別実験 (10単位) 学位論文作成							

【獣医専修コース】

各研究部門における、実験動物医学、病理学専門家協会等の指導医資格を有する主指導教員が「獣医専修コース」を兼務し、同コースにおける各資格取得に沿った特別専修科目を実施する。

⑦ 獣医専修コース（例、臨床専修医）
大学院入学時に、日本小動物外科専門医プログラムに申請

● 研究指導

● 特別専修科目、1～4年次

麻酔・外科分野

外科診療科：担当数@400、執刀数@160

<軟部組織外科>

1. 腹部疾患の診断法（聴診、触診、身体検査）
2. 胸部疾患の診断法（聴診、触診、身体検査）
3. 頭頸部疾患の診断法（触診、身体検査、神経学的検査）
4. 体表疾患の診断法（触診、身体検査）
5. 画像診断法（X線、CT、MRI、超音波）と手術計画
6. 手術器具・装置の種類と使用方法
7. 腹部疾患の治療法（消化器、泌尿器、内分泌器、生殖器）
8. 胸部疾患の治療法（心臓・血管、呼吸器、食道）
9. 頭頸部疾患の治療法（口腔、咽喉頭、感覚器）
10. 体表疾患の治療法（皮膚、乳腺）
11. 術後管理

<整形外科>

1. 運動器疾患の診断法（触診、身体検査、歩様検査、神経学的検査）
2. 画像診断法（X線、CT、MRI、超音波）と手術計画
3. 手術器具・装置の種類と使用方法
4. 骨折の治療法
5. 関節疾患の治療法
6. 脊椎疾患の治療法
7. 術後管理

麻酔科：麻酔に関する40症例の監督下研修

1. 鎮静法
2. 各種麻酔法（静脈麻酔、吸入麻酔、混合麻酔）
3. 疼痛管理（神経ブロック法、硬膜外法、静脈投与法）
4. 腹部疾患の麻酔法
5. 胸部疾患の麻酔法
6. 体表の疾患の麻酔法
7. 整形外科疾患の麻酔法
8. 術後疼痛管理

日本小動物外科専門医PG

軟部組織外科	担当数	執刀数
消化器	150 例	60 例
泌尿生殖器	40	16
腹腔#	30	12
頭頸部	15	6
胸部	25	10
皮膚・形成	15	6
	25	10
整形・神経外科	150 例	60 例
骨接合	50	20
関節	65	26
神経	35	14
その他*	100 例	40 例
総計	400 例	160 例

（腹腔#：脾臓、副腎等）

（その他*：軟部組織外科および整形・神経外科の最低規程件数を超えたものの総数）

その他の要件

- 麻酔に関する40症例の監督下研修
- 画像診断に関する80時間の監督下研修
- 病理に関する80時間の監督下研修
- 内科に関する80時間の監督下研修
- 救急医療への積極的参加（夜間診療も含む）

共同獣医学部附属動物病院（認定研修施設）
研修医PG（各診療分野にて研修）